

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773400278		
法人名	有限会社 サポートハウス藤		
事業所名	サポートハウス藤 藤井寺		
所在地	藤井寺市野中4-11-14		
自己評価作成日	令和元年10月28日	評価結果市町村受理日	平成32年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サポートハウス藤は民家を利用したグループホームです。その佇まいから、利用者やそのご家族には懐かしく感じて頂いています。施設では生活リハビリとして、利用者とスタッフが一緒になって毎日、今まで利用者が行っていた炊事、洗濯、掃除など行っています。そんな中利用者は「昔」を懐かしく思い出され、スタッフとの会話がはずみます。スタッフもまた利用者からいろいろ教わります。また施設では地域の人達との交流も大切にしています。毎日出かける散歩では、出会った人と挨拶をしたり、世間話をしたり。道すがら出会ったわんちゃんや池で遊ぶ鴨に声をかけたり。地域での夏祭りや秋祭りにもでかけます。施設ではそういった平々凡々とした生活を大事にしています。そして、利用者が皆、健康に楽しく穏やかに自分らしく生活して頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、介護保険制度の始まりと同時に、住み慣れた我が家のような暮らしをしてもらいたいと、空き民家を借りて7名1ユニットで、友人2人が開設したグループホームである。床の間のある座敷にソファやテーブルを置き、足元にホットカーペットを敷き、窓からは前栽の木々や鈴なりの柿の木が見られ、昔懐かしい我が家の暮らしがある。居室は京間で広く、どの部屋にも掛け時計があつて時間を意識できる配慮がある。利用者は毎日近所に散歩に出かけ、挨拶を交わして近隣住民との交流に努めている。食事は毎食職員が手作りして提供し、利用者も一緒に調理や盛り付けを行うなど、普通の暮らしが見られる。事業所の理念を「ゆったり いっしょに 楽しく ゆたかに」とし、勤続年数の長い職員と共に、利用者がゆったりと穏やかに生活するよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり いっしょに 楽しく ゆたかに」というサポートハウスの理念に添って、スタッフは利用者様やその家族、また地域の人達との架け橋となって皆様が仲良く穏やかに過ごして頂ける様支援している。	事業所理念を「ゆったり いっしょに 楽しく ゆたかに」として事業所内に掲示し、職員に意識づけて、実践に努めている。会議時に、具体的な言葉かけや意見の伝え方などの話し合いをしている。今後は、開設時からの理念についても話し合いをしていきたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩などで出会った地域の人達と挨拶や世間話をしたり、庭にある季節の花や果実などを交換し合ったりして楽しんでいる。また季節毎に行われる地域での夏祭りや秋祭りなども楽しみの一つになっている。	毎日の散歩で近隣住民と挨拶をして、顔なじみの関係を築くようにしていて、地元の夏祭りや秋祭りを見に行き交流するよう努めている。今後は、ボランティアの要請を考えている。	地域の人と顔見知りの関係作りに努めているが、地域密着事業として地域との関係作りを図るためにも、運営推進会議の議事録を地域役員に届け、交流を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にかかれる運営推進委員会に地域の人達にも参加して頂いて、施設が得た認知症の人達への支援のあり方などを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、施設からは現状報告させた頂き、民生委員や地域包括からは地域での情報を頂き、お互いに盛んに話し合っ施設でのサービス向上に活用している。	2か月に1度、民生委員・家族・利用者・市高齢介護課職員・地域包括支援センター職員・事業所関係者が参加して会議を開催している。会議では、事業所の現況報告や行事報告をして話し合い、意見やアドバイスを受けている。参加者から情報を受け、事業所の活動計画に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からのツ情報提供や調査などには速やかに対応し協力している。	市役所には、各種申請に出向いたり、生活支援課に相談に行っている。利用者の身体的状況を説明してアドバイスを受け、ケアに繋げている。研修の情報を得たり、指導や提案を受けており、入居受け入れをして双方向の関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、それによる弊害をよく理解し、どんな些細なことでもそれに値しないか話し合い、いかに安全に安心して過ごして頂けるか考えながら日々支援している。	身体拘束についてのマニュアルを作成し、職員は身体拘束しないケアをしていて、毎日の散歩を日課として、閉塞感のない暮らしの支援をしている。敷地入り口は施錠しているが、玄関入り口は出入りが自由で、日向ぼっこなどして自由な暮らしができる。	身体拘束拘束等の適正化のための指針を整備し、適正化委員会と研修会を定期的に行って職員に周知し、身体拘束しないケアを徹底することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が常に高齢者虐待防止関連法に基づいて全スタッフに指導を行っているので施設内での虐待の事例報告は無い。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、今回利用者を通じて学ぶ機会があったので全スタッフ学ぶ事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所を検討されている時に、施設での生活について充分理解して頂ける様、ご本人やご家族の不安や疑問を取り除くように丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に、施設での生活ぶりを介護ノートを紹介して知って頂き、ご意見や要望などお聞きしている。	家族の訪問時、介護ノートを見せながら利用者の日常を話し、要望なども聞いている。訪問できない家族には電話で聞くようにしている。聞いた要望はノートに記録して、職員間で共有している。	家族の意見や要望は訪問時に聞くようにしているが、日常の様子をお知らせできるような事業所便りなどで、より多くの意見を聞く工夫をし、事業所運営に反映することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日々の業務における改善点をスタッフから素早く聞き取り、カンファでそれを取り上げ全員で話し合い検討し、より良い支援が出来る様に努めている。	毎月2回の職員会議の時間を設け、全員が参加できるようにして、意見収集や話し合いをしている。利用者のカンファレンスを全員で行っており、月間行事の話し合いもしている。シフト調整して、職員がスキルアップの研修へ参加できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はそれぞれのスタッフの生活にあわせて、勤務環境や条件を少しでも近づけられる様対応している。また少しでも向上心が持てる様定期的に施設内で研修を開き皆で切磋琢磨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設では内外問わずいろいろな研修に参加してもらえる様勤務時間など考慮して一人でも多く研修に参加してもらい、施設での介護力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に地域のグループホームと交流し、情報交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際には、ご本人やご家族とのよりよい関係を築いた上で、きめ細かな連絡報告を行い、不安や要望などを聞き取り安心を得る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずご本人やご家族に安心して頂ける様 どんな些細な事も連絡報告を行い、しっかりとした信頼関係を築き損なわない様つと めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との関わりの中でその時 その時の状況をしっかり見極め、今必要 なサービスを提供出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事や散歩はいつもスタッフと一緒に で、スタッフはそこでご本人から昔懐かしい 歌やお話を聞いている。また家事をしながら 生活の知恵みたいなそんな話題になること もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは、いつもご家族と一緒にご本人 を支えているという気持ちで接しているので、 ご家族の思いはしっかり受け止める様努 めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの美容院や喫茶店へはご 家族の協力を得て行ってもらっている。ま た昔馴染みの人とは電話や手紙、時には 来訪してもらっている。施設では年賀状を 皆さんに書いてもらっている。	利用者の家族・親戚や昔の職場の人が訪ね てくれている。訪問者はキーパーソンに確認し て受け入れている。家族と一緒に買い物したり、 馴染みの美容院や外食に出かけている。 年賀状の手伝いや、電話を利用して馴染みの 人に連絡する支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、毎日の生活の中で利用者同士の関係をしっかり把握してその時々場面場面では盾にもクッションにもなりしてよりよい関係を築いてもらえる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの良き関係を保っていきたくので、必ずこれからもいろいろな相談に応じる事が出来ると伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で気付いた事や変わった事が書かれている介護記録を見て本人の希望や意向を汲み取ってスタッフで話し合うようにしている。	入居時に、家族や利用者から思いや生活歴などの情報を聞き取り、フェイスシートを作成して職員間で共有している。日常の介護記録や生活の中での会話などから、利用者の思いや意向を汲み取って、思いに沿えるケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴や馴染みの物、生活環境などはフェイスシートを通じてスタッフ全員把握出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までのそれぞれの暮らし方をしっかり把握した上でそれぞれのペースで背かっして頂ける様に、決まった曜日じかんは決めずにサービスに入る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフが記録した介護ノートを通じて、常にその人にその人らしく生活して頂くにはどうしたらいいのか、カンファや申し送り時に関係者皆で話し合い、介護計画にも反映させるよにしている。	センター方式を取り入れたフェイスシートに、家族や利用者からの情報を収集して記録し、介護計画に反映している。介護記録を基に毎月モニタリングして評価し、家族や関係者の意見を取り入れ、定期的に介護計画を見直している。目標は短期3か月・長期6か月としていて、利用者の状態に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日に起きたその人らしい出来事を介護ノートの「場面のエピソード」と言う項目に記録し、スタッフ全員で共有していき、介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況によって変化していくご本人やご家族のニーズには素早く管理者やスタッフは対応しカンファで話し合いその時にあった支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今は訪問美容しか利用していないが、防災などについては地域のボランティアに頼らなければならないと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のその人のかかりつけ医師をお願いし、月2階訪問してもらっている。内科や歯科が主な物だが、その他の診療科については必要な時にご家族やスタッフが同行して行っている。	契約時に利用者・家族の意向を確認して、ほとんどの利用者が、従来のかかりつけ医による訪問診療を受けている。協力医療機関からは月2回の内科往診、月1回の歯科の往診があり、異常がある場合のみ家族に連絡して相談している。皮膚科や精神科への通院は、基本的には家族同行だが、薬事指導がある場合には事業所へ連絡がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護師はいないが、医療ノートを設けそれぞれの健康面で気付いた事や変化を医師の訪問時に伝えるようにし指示を受けるようにしている。また緊急時には看護師を通じて医師と直結出来る様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には病院関係者との連絡を頻繁に行っている。また利用者には安心して頂くためににも適宜施設の方からお見舞いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化した時や終末期の支援のあり方を十分に説明し同意してもらえるようにしている。が、必要となれば各関係者との連携を図り、家族の意向に沿う支援が出来る様に努めている。	基本的には事業所で看取りはしないことを、契約時に利用者・家族に伝え、同意書を交わしている。利用者の急な様態の変化や老衰により、過去に3名が亡くなられた事例があり。今後は、緊急搬送時の見極めや、看取りの指針を作成することの必要性を感じて準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われるカンファで、利用者さんの急変や事故時の対応については常に勉強し、その方法についてはスタッフ全員習得できている。また地域との連携の方法も運営推進会議で確立できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所や避難方など、運営推進委員会を通じて確立されたものとなっている。それに基づいて、地域と一緒に年2回避難訓練が行なわれている。	年に2回の自主訓練では、非常口の2階のベランダへの誘導手順の確認を行い、その後消防署に届け出ている。今後は夜間を想定した訓練の実施を予定しており、地域の人に来てもらって見守りをお願いする計画がある。水・懐中電灯・レトルト食品などが備蓄されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保については常に管理者が中心となって助言指導を行っている。また、スタッフ間においてもお互いこの事については充分気をつけて支援していく様声を掛け合っている。	認知症になっても高齢になっても、人としての尊厳は残ると理解し、トイレ誘導や入浴時の言葉かけには特に留意している。職員会議時に、適切な対応について話し合った記録を残して、欠席した職員に回覧して徹底を図っている。個人情報書類は、鍵付きの書庫に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは一人一人の思いや希望を毎日の何気ない会話の中や表情から汲み取れるようなそんな関係作りにスタッフは努めている。またそこで得た情報をお互い共有しその人らしい暮らしをして頂ける様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも利用者の生活ペースに合わせてその時の状況判断でその人に合った支援をスタッフは行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る洋服は、スタッフと一緒に選んで頂いている。また、訪問美容の時にはその人らしいカットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事だけではなく、施設で行われるイベントや誕生会の時もスタッフと一緒にその人に合ったお手伝いをして頂く様にしている。またスタッフは季節の食材を用意するようにしている。	週に1回、車で食材の買い出しに出かけ、その日の担当職員が利用者の好みを聞いて手作りしている。イベント時(誕生日)には手作りのケーキで祝い、家族と共に外食に出かける利用者もいる。行事食として正月にはおせちを作り、利用者に喜ばれている。利用者は食材カット・台拭き・盛り付け・食器洗いなどを、職員と共にいる楽しい準備風景が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事の様子は介護ノートに摂取量などと一緒に詳しく記録され、その記録からその人に合った刻み食やとろみ食を取り入れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に毎食後スタッフは声掛けをし、見守り・一部・全介助によって歯科医の指示に従ってその人に合ったケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフは、トイレでの排泄を基本として支援しているのでそれぞれの排泄リズムを把握してトイレ誘導を行っている。どんなにトイレで難しい利用者にも同様に行っている。	利用者一人ひとりの排泄リズムを介護ノートに記入して、食事の前後に声かけしてトイレ誘導している。排泄自立の利用者は3名、布パンツにパッド、リハビリパンツにパッドの人それぞれに対応している。オムツの人は今のところいない。2階にはトイレがなく、トイレがある1階への階段が危険なため、2階の人は夜間はポータブルトイレを利用して、定時の見廻りで対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排泄を基本に考えているので下剤の使用は最小限に留めている。そのため、毎日の水分摂取や運動には注意している。また朝食後には必ず便座に座ってもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日の入浴ということで対応している。それぞれの好きな時間に入って頂ける様午前午後で用意している。また、拒否や体調不良などがあつた時は曜日や時間を変えたり、清拭に変えて対応している。	利用者の体調により、夕食後に入浴している人もいるが、入浴は基本的に週2回の午前中に行っている。入浴拒否の人もいるが、職員や時間を替えたり、清拭や足浴も取り入れて工夫しながら対応している。職員は入浴中にはできるだけ話しかけて、会話を楽しんでもらうように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リフレッシュタイムについてはそれぞれの利用者の状況に応じて時間回数を決めている。また、体調によっては時間場所を選んで休むようにしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの利用者の薬については、その目的・用法・用量など全スタッフが常に把握し対応している。服薬して何か変化があった時には、すぐに医療に報告、指示を受け、医療ノートに記載するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の生活歴の中から趣味や嗜好品などを見つけ出し、施設での生活の中に取り入れ楽しく過ごして頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設では欠かさず毎日の散歩は行っている。また地域での秋祭りや施設で行う花見などにも出かけている。家族とも馴染みの場所へ出かけられるようにしている。。	毎日の散歩のコースが決まっており、利用者一人ずつ近隣の散歩を楽しんでいる。玄関先で日光浴する人もおり、ほとんどの人が外気に触れて季節を肌で感じている。デイサービスセンターの車で、弁当持参で古墳まで桜の花見に遠出して喜ばれている。家族と共に食事に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在施設ではお金を使ってという支援は行っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があれば電話を掛けて頂いたり手紙を書いて頂いたりしている。施設としてはスタッフの支援によって毎年家族へ年賀状を書いてもらうようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を利用したこの施設ではそれだけで懐かしく思われほっとされます。そんな中スタッフは季節の花を飾ったり、かわいいイラストなどを切り抜いて部屋に飾ったりしている。	一軒家を改装した玄関は広く、散歩などの外出時には、靴の着脱もゆったり椅子に腰かけてできる。玄関には、季節の生け花、旅行の本、アロマ加湿器が設置されて、小休止などに有効利用されている。和室からは落ち着いて庭が眺められ、長椅子では利用者が談笑しながらテレビを見て寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大半をリビングで過ごされる利用者のためにスタッフは季節によって敷き物を変えたり、利用者のソファの位置を変えたり、季節の花を飾ったり、目で楽しんで頂ける様にして、毎日気持ちよく過ごして頂ける様心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設のそれぞれの部屋はそれぞれの雰囲気をもっており、そこへそれぞれの利用者の馴染みの家具や思い出の品を置いて頂いて楽しんでもらっている。	居室入口には表札代わりに花の名前が貼られ、利用者が自室を間違えないような工夫が見られる。事業所は、加湿器・タンス・時計・カレンダー・押し入れ・ベッド・カーテン・冷暖房設備などを取り揃え、2階の各室にはポータブルトイレが設置されている。利用者は、家族と共に相談して選んだ家族とのスナップ写真やテレビ・ラジオなどを持ち込んで、居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の部屋にはそれぞれの好きな花で名前をつけたり、施設内には所々案内板を設けたり、手すりや滑り止めをつけたり、段差をなくすなどの工夫をして少しでも利用者にとって移動しやすいように配慮している。		